

あの頃の津山

大正時代末ごろの 津山高等女学校



写真提供・江見写真館

大正時代の末ごろに発行された『津山町写真帳』に掲載された津山高等女学校（現在の津山高等学校）の写真です。背景には、神南備山が見えています。

津山高等女学校は明治36年（1903）4月、大手町（当時は山下）に開校しました。学校の敷地は、現在の大手町とほぼ同じで、南側は津山城の堀に面し、その堀の土塁がそのまま敷地の境界線となっていました。そして、いつのころからか、土塁は「万里の長城」と呼ばれるようになっていました。

『津山高校百年史』には、この土塁は「庭園として整備され、ここにシュロランの白い花が咲いていた」と記されています。学校内の寄宿舎に住む生徒たちは、寮生活から解放される夏休みのころに花を付けるシュロランを「休暇草」と呼び、休暇草の花が咲くのを心待ちにしていたというエピソードもあります。

昭和24年（1949）、津山高等女学校は津山高等学校に統合され、昭和30年代には、大手町にあった校舎のほとんどは取り壊されました。現在は、堀の石垣や土塁の一部だけが残り、市の文化財・津山城外濠跡として、その歴史を伝えています。



現在の大手町付近



現在に残る堀の石垣

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

〒22-4567 津山郷土博物館 ☎22-4567

今月の表紙

沖縄の伝統芸能エイサー
を踊る女子大生
美作大学（北園町）



ボールペンのインクの出が悪いな。インクが無くなったわけでもないようだ。いろいろ試してみよう。軟らかい紙や硬い紙に書いてみる。ペン先をティッシュで掃除してみよう。ペン先を温めてみる。ペンを振ってみよう。復活した！さて、この先1年間で、何本のボールペンを使い切るのかな。（一）

今月号のつばきやきが、わたしの最後のつばきやきとなりました。市内のあちらこちらへ取材に訪れましたが「広報つやま」の腕章を見た人から「つばきやき編集室」を楽しみにしていますよ」とよく声を掛けていただきました。ありがとうございました。これからもつばきやきを読んでもください。（G）

春の味覚と言えば、皆さんは何を連想しますか？ タケノコ・フキノトウ・イチゴなどいろいろありますね。わたしは「イカナゴの釘煮」です。本来は、兵庫県播磨地方の郷土料理ですが、この時期市内の食料品店にも出回ります。釘煮をつまみに、桜の花びらを杯に浮かべるのもオツですね。（修）

編集・発行（毎月10日発行）

津山市総合企画部秘書広報室（市役所3階）〒708-8501 岡山県津山市山北520番地

☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152 ✉kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます

<http://www.city.tsuyama.lg.jp/>



津山市ホームページ版

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクル（雑誌）にご協力ください

